

グリーンカルチャー

2020
冬号
No.316

こゝろ

発行 | 甲賀農業農村振興事務所
農産普及課

住所 | 〒528-8511

甲賀市水口町水口6200

電話 | 0748-63-6126

発行責任者 | 市井 広樹



水口町牛飼の田んぼアート

甲賀市水口町牛飼集落においては、5年前から葉色の異なる水稲品種を用いて田んぼに絵柄を描く「田んぼアート」の取組が行われています。今年は「イナズマロックフェス2019」と提携して実施しており、田面にそのキャラクターの「タボくん」が浮き上がりました。



集落農業の維持に向けて

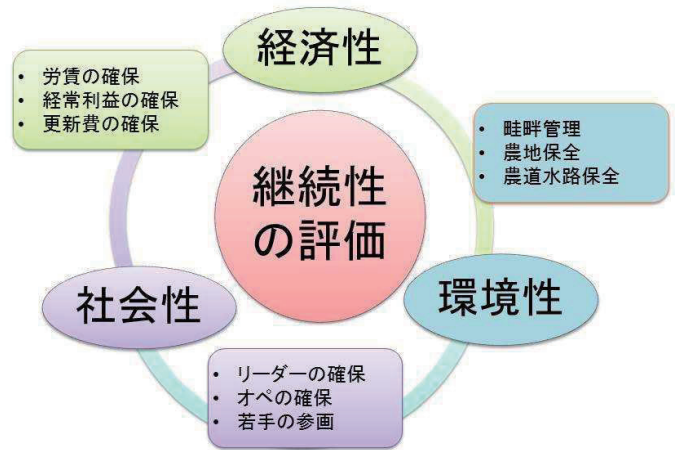
■ 集落から人がいなくなる？！

集落営農法人を対象に、集落営農組織の次世代への継承についてアンケート調査をした結果、集落農業の次世代にあたる人たちの農業離れが進むと同時に、集落の自治組織活動が人手不足に陥っている現状が明らかになってきました。

■ 集落農業の持続性を図る上で必要な3要素

アンケート調査の分析から、組織の持続性を評価する指標として、図1のように集落の中の「経済性」、「社会性」、「環境性」に関わる三つの仕組みが、正しく機能していることが重要と考えられました。

集落営農組織の母体である集落自治の「社会性」すなわち農業組織に人材を送り出す仕組みや、「環境性」すなわち農道や水路などを維持する仕組みが弱まっており、集落営農組織の次世代継承を図る上でこれらの対策が求められます。



（作成協力：東京大学農業経営学研究室）

図1 集落営農法人リーダーが感じる組織継続のための要素

■ 集落の機能を取り戻そう

一昔前なら、集落の自警団や消防団などの自治活動を通じて、自然と世代間で様々なことが伝達されており、農業も例外ではありませんでした。しかし、農業に携わる人が減ってきたことや、集落の若い世代が外部に出ていくことなどから、そのような機会が急速に失われつつあります。この“むら”の機能を維持・向上させるためには、集落を活性化させる方策が必要と考えられますが、問題は、そのための人手が集落に不足しているということです。

集落の仕組みを改善する取組を進めるために、集落の人が共通して誇れるもの、変えてはいけなものを発見し、それを守るためにやるべきことの合意形成を図る手法として、滋賀県立大学の鶴飼先生が提唱する「地域診断」というワークショップ手法があります。

■ 集落の多様な立場の人が話し合う地域診断の実施



地域診断で集落の課題を話し合う

昨年度、水口町牛飼で実施した地域診断では、自治会組織が人を集め、農業だけでなく、地域で取り組まれている行事に関係する物や場所の「見て歩き」を行い、各々が守っていききたい行事や伝統を次世代に引継ぐための意見を紙に書いて出しました。

その結果、守りたいと考えている行事がいくつかある一方で、運営する人手が不足しており、今のままでは継続は難しいのではとの共通認識に至りました。その対応の一つとして、外部の人材を呼び込むことができないか検討が始まっており、その取組と農業組織の活動とが連携することで、地域と農業組織のつながりがさらに強まり、課題解決につながることを期待しています。



地元産果樹の出荷はじまる



～ぶどう改良仕立て・なし低樹高栽培で始める果樹栽培～



「地元産 “くだもの” が欲しい」 の声に応じて

農協の直売所等では、消費者から果樹の販売を求める声が多く寄せられていました。この声を受けて、平成28年度から甲賀市・湖南市・甲賀農協・甲賀農産普及課などが栽培者を募り、新たな果樹産地づくりの取組を進めてきたところです。

本年度には、「ぶどう」で14戸約1ha、「なし」で9戸約30aの栽培となり、この夏には、直売所で地元産「ぶどう」と「なし」の本格的な販売が始まりました。



直売所にぶどうを並べる生産者



初めて取り組む方でも安心して栽培開始できます



ぶどう改良仕立ての作業姿勢



なし低樹高栽培の収穫作業

「ぶどう」は、肩の凝る上向き作業が大幅に軽減される改良仕立て、「なし」は、主な管理が目の前の高さで行える低樹高栽培で、いずれも楽な姿勢で管理作業が行えます。また、せん定作業も単純化され、初めての方でも栽培し易くなりました。初収穫は、苗木の植付けから「ぶどう」で2年、「なし」で3年と早期の収穫が可能となっています。

栽培開始にあたっては、ほ場や品種の選択など関係機関が個別相談で対応しています。また、栽培技術の習得については、部会で定期的に研修会を行っていますので、順を追って習得できます。定年帰農での栽培者も多数おられ、さらに、部会員同士で情報交換しながら栽培を進めることができるので安心です。



自主施工可能な低コスト棚で初期投資も軽減



低コスト棚の施工風景

10aあたりの指標	利益	年間労働時間	時間あたりの利益
ぶどう改良仕立て栽培	133万円	404時間	3,300円
なし低樹高栽培	87万円	295時間	2,950円

※県経営ハンドブックを基礎に低コスト果樹棚導入を前提に計算

従来の果樹棚の約1/3の経費で自主施工が可能な低コスト棚の導入により、初期投資を抑えつつ、ほ場の形状や栽培者の労力に見合った面積での栽培開始が可能です。

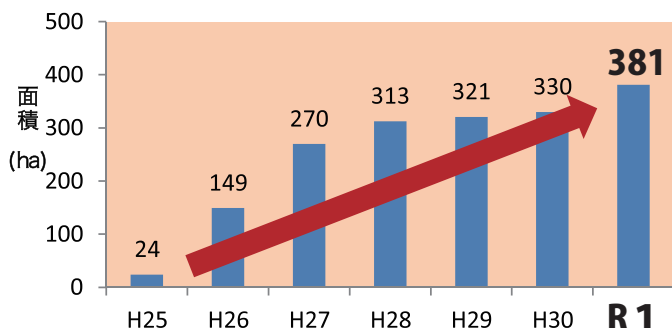
経営的には、時間あたりの利益がいずれも3,000円前後と高収益が期待できますので、集落営農組織等での取組でも労賃支払いが十分可能です。詳しくは甲賀農産普及課までお問い合わせ下さい。

良食味米「みずかがみ」の需要が高まっています！

「みずかがみ」の生産と良食味の状況

滋賀県育成品種の「みずかがみ」は、8月下旬に収穫できる早生品種で、ほどよい粘りとまろやかな甘みがあり、冷めてもおいしいのが特徴です。消費者の評価も高く、ますます需要が高まっています。「みずかがみ」は、過去の作付においても、高温に強く、猛暑の年でも品質が安定するという特徴を発揮し、一等比率は「コシヒカリ」や「キヌヒカリ」に比べ大きく上回っています。

甲賀管内「みずかがみ」栽培面積



「みずかがみ」のさらなる作付拡大

「みずかがみ」は、一般社団法人日本穀物検定協会の食味ランキングで平成27年から3年連続の特A評価を獲得していることなどから、ブランド力の向上や良食味に対する評価の高まりにより需要が増加しているにもかかわらず、県内ではこの需要を満たすための生産量が不足しています。近年、販売価格も上昇し、取引価格は主要早生品種の中で「コシヒカリ」に次ぐ価格帯となっています。このように、販売先からの要望数量に生産が追いついていない状況であり、今後も確実な需要が見込める“売れる米”としてさらなる生産拡大が求められています。

濁水防止！田植までの技術対策

毎年、4月中旬から5月下旬の代かき、田植えの時期にかけて、水田から流れ出た濁り水が河川や琵琶湖に流れ込み、濁りの原因となっています。

甲賀農産普及課では、管内の主要7河川(12地点)において水の美しさの目安となる透視度の調査とともに、濁水流出防止の啓発活動を行っています。令和元年度の透視度調査の結果、調査期間の平均は52.4cmでした。調査期間が同じ直近3か年では全体的には改善されつつありますが、一部では依然として透視度が低い地点があります。河川や排水路を見回っていると、濁った水が流れている様子が見られます。水稻を栽培されている全ての農家の皆さんが、農業排水対策のための基本技術を再確認し、実践いただきますようお願いいたします。

農業排水対策の基本技術

最重要チェック項目

- 代かき前、田植え前は水を落とさない
(計画的な作業により強制落水をしない)
- 畦、排水口の漏水対策
(畦の亀裂や穴を補修、止水板の設置)
- 浅水での代かき
(土が7~8割見える状態で代かき)



代かきは、土が7~8割見える程度の浅水で!!